

# 学生の音楽能力に関する調査研究（1）

## ～ 小学校音楽科授業の成果と課題 ～

### Research about the Musical Ability of Students (1) ～ Results and Problems in a Music Department Class ～

(2008年3月31日受理)

太田正清

Masakiyo Ota

Key words : 小学校音楽科教育 (音楽の授業), 音楽的能力, 音楽能力調査

## 要 旨

小学校学習指導要領音楽科の目標は「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」である。実践現場での音楽学習の評価はどれも「愛好する心情」を育てるあたりを目標に児童に一步退いたような指導・評価をしているのではなかろうか。愛好する心情が育つのは基礎的な能力が培われるからこそだと思う。ごく稀には、児童の音楽的能力の伸長を考慮してなるべく客観的に行っている教員もいるとは思う。音楽的能力の伸長を考慮して学習・評価をしてもらった児童は幸いである。筆者は本学学生の音楽能力調査を実施してみて、改めて小学校音楽科授業の指導・評価の重要性を痛感している。

### 1. 小学校音楽科授業の評価

小学校で実施される算数科と音楽科の授業評価について比較してみたい。児童が3学年に進級した時点で、3学年担当の教員は児童の2学年での九九の習得状況を調べ、もしも不十分であったならば、前年度の2学年担当教員の指導を疑う。算数科は系統的に指導しなければ学習が成立しなくなるからだ。

ところが、こと音楽科の指導・評価に関しては、新しくその学年を担当した教員が児童の前年度の音楽科担当教員に不平や不満を言ったということはありません。それどころか、音楽科の場合、学年の下のクラスが上のクラスの音楽的能力を勝っている場合はかなり多いと思われる。

算数科と音楽科とは学習指導要領<sup>(1)</sup>の記述(書きぶり)に次のような違いがみられる。算数科第2学年, 2. 内容 A 数と計算 (3) ウ乘法九九について知り, 1位数と1位数との乗法の計算が確実にできること。という

ように「確実にできる」と書かれている。

一方、音楽科といえば1学年及び2学年 2. 内容 A 表現 (1) 音楽を聴いて演奏できるようにする。ア範唱や範奏を聴いて演奏すること。(3) 歌い方や楽器の演奏の仕方を身に付けるようにすること。イ身近な楽器に親しみ、簡単なリズムや旋律を演奏すること。というふうに技能面でできるところに「確実に」という表現はどこにも使用していない。だからといって、児童への評価が曖昧であっていいはずはない。まして、各教員の主観で児童の音楽実技の評価を行ってよいことはない。客観的にみて、学習指導要領に示された学年相応の学年の音楽的発達に見合ったリズム感・メロディー感・ハーモニー感は理解・感得され、個々の児童が確実に身に付いているのかどうか。きちんとみてやるべきである。児童の音楽能力獲得に向けた努力ををきちんと評価しなくては音楽科の評価とは言えない。

小学校教員の多くが児童の音楽的能力の伸長についての理解できてないのかもしれない。

## 2. 音楽的能力の発現期

HaekerとZiehenの調査<sup>(2)</sup>によれば、幼児期から青年前期にかけての音楽的能力の発現時期は次のとおりである。

表1 音楽的能力の発現時期

性別 \ 年齢	2～5	6～10	11～15	16～20	総計
男	131	106	38	9	284
	46.1%	37.3%	13.4%	3.2%	
女	74	68	13	2	157
	47%	43.8%	8.3%	1.3%	

これによると音楽的能力は、男女児ともに、10歳までに発現するケースが圧倒的に多く、しかも10歳以降の減少がきわめて急速だという事実がまず目につく。なお、この調査の内訳によれば「音楽的能力の発現は、二つの大きなピークを形成しており、また10歳をピークとして、つぎの11歳では急激な現象を示すが、12歳でもう一度、わずかながらも盛り上がりを見せ、それ以降は下降の一途をたどる」という。

4歳ですでに驚異的ともいえる才能を発現させたといわれているモーツアルトの例を持ち出すまでもなく、音楽的能力はきわめて早いとされている。しかしその半面、それだけに減退の時期や速度もまた急速だという実態が、この表からも読みとれよう。

こうしてみると、児童期こそ、音楽的能力の発現のチャンスであり、そのことはまた、とりもなおさず、望ましい音楽的陶冶にとっての最適の時期でもあることを示唆するものにほかならない。

## 3. 音楽能力調査のいろいろ

外国における音楽能力調査は、大別すると、音感テストのように比較的音楽性の基礎になる能力をみるものと、鑑賞力や理解力、または創造力等を見ようとするものに分けられる。前者は分析的なテストが多く、後者はそれに対して総合的または具体的なものが多い。

・シーショア・テスト<sup>(3)</sup> Seashore; Musical Talent Tests

音楽才能を、音高、時間、強弱、リズム、音の記憶、音色の6つとして、その鋭敏性をみようとするもの。

・ギルバートの音高テスト<sup>(4)</sup> Gilbert; Sence of Pitch

標準音を435振動、比較音をそれぞれ1/32(約14振動)高くまたは低くして、音高に対するセンスを調べるもの。

・レベスの音楽才能テスト<sup>(5)</sup> Revesz; Musical Talent Tests

リズム、絶対音感、音高弁別、オクターブの認識、和音と旋律の記憶、音の動きを判断する能力の7つをみるもので、シーショアやギルバートのものに比べると、純然たる音感テストだけでなく、やや学習的な分野が考慮された具体的なものが含まれている。

・カルワッサー・ディクマのテスト<sup>(6)</sup> Kalwasser Dicma' Tests

音の記憶、音色の弁別、強弱の弁別、音の動きに対する感覚、時間知覚、リズム知覚、音高弁別、旋律に対する好悪感、音高心像(Pitch Imagery)、リズム心像(Rhythm Imagery)の10個のテストでできているが、旋律の好悪や音の記憶などで実際の音楽の材料を用いている点では、シーショアのものよりも具体性を備えたテストである。

・ロウリーのカデンツ・テスト、フレーズ・テスト<sup>(7)</sup> Lowery; Cadence and Phrase Tests

カデンツ・テストは、ハ長調やイ短調の終止形の聞き分け、フレーズ・テストはフレーズの把握の能力をみるもの。

・カルワッサー・テスト<sup>(8)</sup> Kalwasser Tests

前述ディクマとの共同のテスト以前に作成されたもので、旋律の断片を聞いてその良し悪しを判断する問題と、和音を聞いて同様にその良し悪しを判断する問題でできている。

・ドレイクのテスト<sup>(9)</sup> Drake; Four New Tests of Mujical Talent

このテストは、音楽的記憶、把握力(Retentivity Tests)音種弁別、直観(Intuition Tests)の4つからできている。

・マルタ・ビドールのテスト<sup>(10)</sup> Martha Vidor; Was ist Musikalitat?

マルタ・ビドールは、旋律の完成テスト(6つの旋律を途中まで聞かせ、その続きを書かせまたは歌わせてその旋律を完成させる)、リズムの旋律化テスト(リズムを聞かせ、そのリズムを使って旋律を作らせる)、旋律の比較(伴奏をもった2つの旋律の類似性および相違点をあげさせる)の3つのテストを行うもので、これは比較的高級なテストとされている。

・音研式 小学校用 音楽能力診断テスト<sup>(11)</sup> 音楽心理研究所編著 日本文化科学社(1979年版)

このテストの上学年用の内容は次である。

このテストは次の6つの下位検査から成り立っている。1. リズムの問題 2. 旋律の問題 3. ハーモニーの問題 4. 読譜の問題 5. 創作の問題 6. 鑑賞の問題

また、上学年の実際の学習の基準になっている学習指導要領における能力をまとめてみると次のようになる。

#### A 鑑賞

- ① 音楽を聞くことへの興味
- ② リズム、旋律、和声についていっそう深い基礎的感覚力

#### B 表現

(歌唱)

- ① 斉唱、輪唱、二部合唱、三部合唱についての基礎的な歌唱技能(頭声的発声、リズム、音程、フレージング、和音唱、その他の歌唱技能)
- ② 読譜および記譜の能力(ニ長調、ホ短調まで)

(器楽)

- ① リズムについての基礎能力
- ② リズム楽器、旋律楽器の演奏技能
- ③ 器楽合奏能力

(創作)

- ① 創造的音楽表現の基礎能力
- ② 即興的音楽表現の能力

これらと下位検査の関係は次である。

#### (1) リズムの問題

(鑑賞) ②

(歌唱) ①, ②

(器楽) ①, ②, ③

(創作) ②

#### (2) 旋律の問題

(鑑賞) ②

(歌唱) ①, ②

(器楽) ②, ③

(創作) ②

#### (3) ハーモニーの問題

(鑑賞) ②

(歌唱) ①

(器楽) ③

(創作) ①

#### (4) 読譜の問題

(歌唱) ①, ②

(器楽) ③

#### (5) 創作の問題

(歌唱) ①

(創作) ①, ②

#### (6) 鑑賞の問題

(鑑賞) ①, ②, ③

・音楽能力調査<sup>(12)</sup> 岐阜県小学校音楽部会基礎能力表作成委員会編 日本音楽著作権協会(出)許諾 第9061066-001

このテストの5, 6年用の内容は次である。

#### (1) リズムの問題

(拍子) リズムや強弱や速度の変化に応じて、指揮で表現することができる(リズム1で5問, リズム2で5問)

(リズムフレーズ) 速度の変化, リズムの変化及び拍子の変化による曲想の違いを感じ取り, 表現することができる(リズム3で5問, リズム4で5問)

#### (2) 旋律の問題

(フレーズ) 旋律の繰り返しや変化によるまとまりの美しさを感じ取ることができる(旋律5で5問, 旋律6で5問)

(旋律の感じ1) 言葉と旋律の一体的な美しさを感じ取ることができる(旋律7で5問)

(旋律の感じ2) 長調, 短調, 日本古謡やわらべうたの聴き分けができる(旋律8で5問)

#### (3) 和声の問題

(和音・和声1) I, IV, V, V7 の和声の聴き分

けができる（和声9で5問）

（和音・和声2） I, IV, V, V7 の和音による和声進行の聴き取りができる（和音で10で5問）

（旋律とのひびき1） I, IV, V, V7 の和音で伴唱奏をすることができる（和音11で5問）

（旋律とのひびき2）和声的及び対位的な編曲による響きを感じ取って合唱や合奏をすることができる（和音12で5問）

#### （4）視唱奏・記譜

（視唱・視奏）へ長調及びニ短調の曲を視奏したり視奏したりすることができる（視唱奏で5問）

（記譜）即興的に、まとまりのある旋律を工夫して表現できる（記譜で5問）

## 4. 学生に実施した音楽能力調査

筆者の「音楽科教育法」を受講した学生に平成19年10月25日音楽能力調査（岐阜県小学校音楽部会基礎能力表作成委員会編）を実施した。この音楽能力調査は実音で構成されている。また、平成元年度告示（平成4年度施行）の小学校学習指導（音楽）に準拠しているため、現行（平成10年度告示，平成14年度施行）の学習指導要領との違いを一部分述べておく。平成元年度告示のものは、階名で模唱したり暗唱するのは、へ長調，ニ短調までであったが、現行はハ長調，イ短調までである。また、音符についても平成元年度のものには付点がついていたが現行のものにはついていない。内容的には、やや簡単になったように見えるが、質的には殆ど変わっていないと思われる。この調査の内容は前述したようにリズムに関する問題20問，旋律に関する問題20問，和声に関する問題20問，視唱奏・記譜に関する問題10問の合計70問から構成されている。問題は音声により提示される。テスト時間は40分である。問題内容詳細は本論巻末の別表1を参照。

## 5. テスト結果と考察

結果は各項目，個人とも5段階で表した。3.0以上得点すれば，小学校高学年の音楽的能力（音楽的技能）をまずまず習得したと考えられる。

表2 調査結果（男子学生）

	リズム 1.2	リズム 3.4	旋律 5.6	旋律 7.8	和音 9.10	和音 11.12	視唱奏	個人平均
m1 前	2	1	1	1	1	1	1	1.14
m2 前	1	1	2	2	3	1	1	1.57
m3 前	1	2	1	4	1	2	4	2.14
m4 前	1	1	4	1	4	4	4	2.71
m5 前	2	3	5	1	4	4	4	3.29
m6 前	2	2	5	4	4	3	4	3.43
m7 前	2	4	5	3	3	4	3	3.43
m8 前	1	4	5	5	4	3	4	3.71
平均前	1.5	2.25	3.5	2.63	3	2.75	3.13	2.68
m1 後	4	4	5	3	4	4	4	4
m2 後	3	4	5	1	5	4	3	3.57
m3 後	3	3	4	5	3	3	3	3.43
m4 後	1	3	5	1	4	4	4	3.14
m5 後	4	4	4	1	5	4	4	3.71
m6 後	2	4	3	4	5	4	4	3.71
m7 後	3	4	3	2	3	1	3	2.71
m8 後	1	1	3	4	1	4	2	2.29
平均後	2.63	3.38	4	2.63	3.75	3.5	3.38	3.32

結果は表2，表3で示した。男女差が相当あるので，男女別に考察してみたい。

まず，男子学生の結果から考察してみる。1回目の調査をH19年10月に実施した。男子学生の平均値は2.679であった。3.0にも達せず厳しい結果となった。中でも最も厳しい結果が出たのがリズム1.2で5段階で1.5。次がリズム3.4の2.25。3番目に厳しかったのが旋律7.8で2.625。4番目が和音11.12で2.75。他は3.0を越えた。

また，2回目の調査をH20年1月に実施した。調査結果で厳しかったのはリズム1.2と旋律7.8であった。それでもこの両項目とも2.625であり3.0によく近づけたと思う。また項目別の伸長率をみるとリズム1.2が175%。リズム3.4が150%と1回目より低すぎたばかりに2回目は伸長率が相当なものであった。男子学生の平均値の伸長率は124%であった。男子学生の被調査者数は8名であった。8名を伸長率の良い順に並べてみると次のようであった。350%→227%→160%→116%→113%→108%→79%→62%。

8名中6名が正の，2名が負の伸長を示した。しかし，極端に伸びた3名は1回目の調査では集中力を欠いていたのかもしれない。逆に2回目で伸長率が100%を切った2名は2回目に集中力を欠いていたのかもしれない。前調査において男子学生8名中4名は3.0以上であった。男子学生の半数は小学校高学年の音楽能力を身に付

けていた。ところが後調査で3.0を越えた男子学生は8名中6名であった。僅かな期間ではあったが男子学生は相当の音楽能力を身に付けた。

また、項目別に着目してみると、前調査でいちばん厳しかったのはリズムを感受する能力が1.5と2.25であった。次に厳しかったのは旋律を感受する能力の一部で2.63であった。3番目に厳しかったのが和音を感受する能力の一部で2.75であった。これより他の項目（音楽能力）については平均以上の力を身に付けていた。ところが、後調査の結果で3.0以下はリズム1.2と旋律7.8のみで他は平均以上となった。男子学生の多くは本学での音楽関係の講義や演習に相当努力したものと思われる。ここで正の最変化の男子学生の状況を図示する。

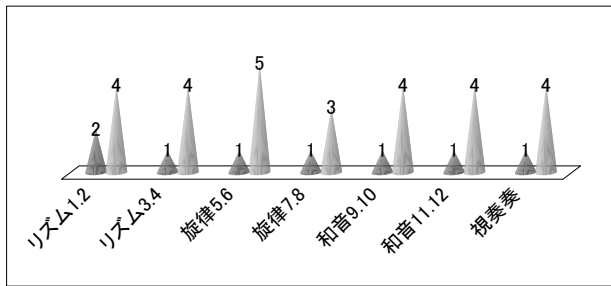


図1 最変化男子学生の状態 (■前調査 □後調査)

女子学生の結果を考察してみる。2回の調査時期は男子学生と同じである。女子学生の1回目の結果は3.78とかなり高い音楽能力を身に付けていた。調査7項目中リズム1.2が2.67と唯一厳しかった。しかしながらこのリズム1.2に関して2回目の調査では3.33と随分とリズム聴取の能力を高めたと思う。他の6項目については相当音楽能力を身に付けていた。中でも視唱奏の能力は4.33極めて高く女子学生は楽譜を見て歌ったり、楽器を演奏したり、聴音記譜は得意である。1回目の調査で3.0以下であった女子学生は21名中3名であったが、2回目の調査では3.0未満の学生は皆無であった。逆に1回目の調査で7項目中の最高であった視唱奏は2回目の調査では更に成績を伸ばし4.48となった。

女子学生は指導者となった場合に音楽指導でとまどうことは少ないと思う。次の図2は正の最変化の女子学生の状況である。

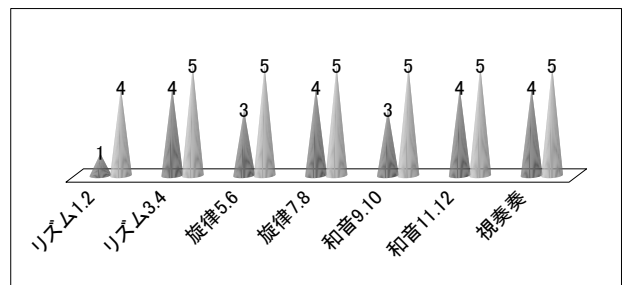


図2 最変化女子学生の状態 (■前調査 □後調査)

表3 調査結果（女子学生）

	リズム 1.2	リズム 3.4	旋 律 5.6	旋 律 7.8	和音 9. 10	和音 11. 12	視 唱 奏	個 人 平 均
f1 前	1	4	3	4	3	4	4	3.29
f2 前	2	3	4	4	5	4	4	3.71
f3 前	4	3	3	4	5	4	4	3.86
f4 前	2	3	4	4	4	4	5	3.71
f5 前	2	3	3	4	5	4	5	3.71
f6 前	3	3	1	3	4	3	3	2.86
f7 前	3	5	2	2	4	4	5	3.57
f8 前	2	5	5	3	4	4	5	4
f9 前	3	4	5	3	4	5	5	4.14
f10 前	4	4	5	4	3	4	5	4.14
f11 前	1	4	3	4	3	2	4	3
f12 前	3	4	2	4	3	4	4	3.43
f13 前	4	3	4	4	4	4	3	3.71
f14 前	2	4	3	4	5	5	4	3.86
f15 前	3	4	3	2	3	2	3	3.86
f16 前	2	2	4	1	5	4	5	3.29
f17 前	3	5	1	3	3	4	5	3.43
f18 前	2	5	5	2	4	4	4	3.71
f19 前	4	4	3	4	3	4	5	3.86
f20 前	2	3	2	4	3	1	5	2.86
f21 前	4	5	3	4	5	4	4	4.14
平均 前	2.67	3.81	3.24	3.38	3.9	3.71	4.33	3.58
f1 後	4	5	5	5	5	5	5	4.86
f2 後	5	4	4	4	5	4	5	4.43
f3 後	4	5	4	4	5	4	5	4.43
f4 後	2	4	5	4	5	5	5	4.29
f5 後	4	5	3	4	3	5	5	4.14
f6 後	3	4	5	4	3	4	5	4
f7 後	4	3	5	4	4	4	4	4
f8 後	4	4	3	5	4	4	4	4
f9 後	4	3	4	4	4	4	5	4
f10 後	4	2	5	3	3	4	5	3.71
f11 後	2	3	5	3	3	4	5	3.57
f12 後	4	4	5	2	3	3	4	3.57
f13 後	3	2	3	5	5	3	4	3.57
f14 後	5	4	3	4	3	3	3	3.57
f15 後	2	4	2	4	4	4	4	3.43
f16 後	4	3	5	2	2	4	4	3.43
f17 後	4	4	1	1	5	4	5	3.43
f18 後	3	4	5	3	3	1	5	3.43
f19 後	2	5	3	1	5	4	4	3.43
f20 後	1	4	3	4	1	3	5	3
f21 後	2	1	4	4	4	3	3	3
平均 後	3.33	3.67	3.9	3.53	3.76	3.76	4.48	3.78

### 6. 小学生音楽能力調査の結果と考察

岡山市立K小学校6年生で音楽能力調査を実施した。6年生は、男子6名、女子11名であった。1回目は平成19年12月、2回目は平成20年3月であった。男女とも伸長はみられたが、特に1回目は男女ともに厳しい結果がでてしまった。

それでは男子児童（以下男子）の結果から考察してみたい。

表4 調査結果（男子児童）

	リズム 1.2	リズム 3.4	旋律 5.6	旋律 7.8	和音 9.10	和音 11.12	視唱奏	個人平均
d1 前	3	1	1	4	2	1	3	2.14
d2 前	4	5	2	4	4	1	3	3.29
d3 前	1	2	1	4	1	1	1	1.57
d4 前	2	2	5	2	3	1	1	2.29
d5 前	2	4	1	4	2	1	3	3.29
d6 前	1	1	1	2	3	1	1	1.43
平均前	2.17	2.5	1.83	3.33	2.5	1	2	2.19
d1 後	3	4	4	1	4	1	4	3
d2 後	1	4	5	1	4	1	2	2.57
d3 後	1	4	2	1	3	1	3	2.14
d4 後	2	3	3	2	1	1	3	2.14
d5 後	1	2	3	2	1	2	3	2
d6 後	1	1	2	1	3	1	2	1.57
平均後	1.5	3	3.17	1.33	2.67	1.17	2.83	2.24

1回目の男子の平均は5段階で2.19と極めて厳しい結果がでた。いちばん厳しかったのが和音11,12の1。次が旋律5,6の1.83。その次がリズム1.2の2.17。

また、2回目の調査では伸長はしたものの項目によっては厳しい状態を示している。平均は2.24。1回目より若干上昇した。

それでも平均より低いものとしては和音11,12の1.17。旋律7,8の1.33。リズム1.2の1.5が挙げられる。

男子全体の伸長は2%であった。3名は伸長していたが3名は後退していた。6名を伸長率のよい児童から並べると140%→137%→110%→94%→82%→78%となった。

それでは、最も伸長率の良かった男子児童を図示する。

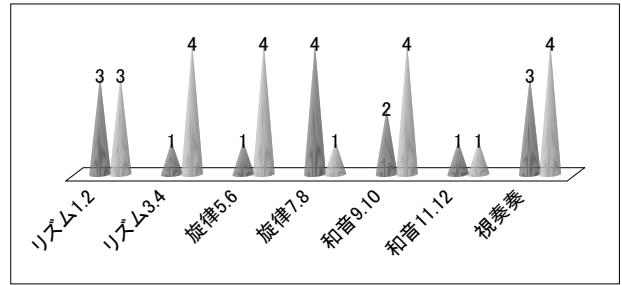


図3 最変化男子児童の状態 (■前調査 □後調査)

次は女子児童（以下女子）について述べる。

1回目の女子の平均は5段階で2.49は男子の両回ともを上回っているものも6年生としては苦しい状況にある。せめて3にまで到達して欲しいと思う。3まで到達していれば何とか6年としての音楽科授業についていけると思われる。因みに1回目で3にまで到達した女子は2名（18%）。2回目は3名（27%）であった。

女子の1回目の結果で厳しいと思われるものは、和音11.12の2。リズム1.2の2。リズム1.2の2.09。

2回目は1回目より若干上昇したものの依然として6年生女子としては苦しい状況にある。特に和音11.12は

表5 調査結果（女子児童）

	リズム 1.2	リズム 3.4	旋律 5.6	旋律 7.8	和音 9.10	和音 11.12	視唱奏	個人平均
j1 前	2	1	3	4	4	2	4	2.86
j2 前	2	3	2	3	3	1	4	2.57
j3 前	2	2	4	1	4	1	3	2.43
j4 前	2	1	2	4	4	3	4	2.86
j5 前	1	4	1	1	2	1	3	1.86
j6 前	2	2	3	1	2	1	2	1.86
j7 前	5	2	3	3	3	1	3	2.86
j8 前	1	3	5	3	3	2	4	3
j9 前	1	1	3	4	3	1	3	2.29
j10 前	2	1	2	2	1	1	3	1.71
j11 前	2	3	3	4	4	3	3	3.14
平均前	2	2.09	2.82	2.73	3	1.55	3.27	2.49
j1 後	1	3	4	4	3	4	4	3.29
j2 後	2	4	3	4	3	3	3	3.14
j3 後	3	1	3	2	4	4	4	3
j4 後	3	1	3	3	4	1	4	2.71
j5 後	4	3	3	1	3	1	3	2.57
j6 後	1	2	3	4	3	1	3	2.43
j7 後	1	2	3	4	3	1	3	2.43
j8 後	1	3	4	1	3	1	4	2.43
j9 後	1	1	4	1	4	2	3	2.29
j10 後	2	4	1	1	4	1	2	2.14
j11 後	1	2	3	3	4	1	1	2.14
平均後	1.82	2.36	3.09	2.55	3.45	1.82	3.09	2.6

1. 82。リズム1. 2は1. 82。リズム3. 4は2. 36。

女子全体の伸長率は4%であった。11名中6名伸長。1名変わらず。4名後退。11名を伸長率のよい児童から並べると138%→131%→125%→124%→122%→115%→100%→87%→85%→81%→68%。

それでは、最も伸長率の良かった女子児童を図示する。

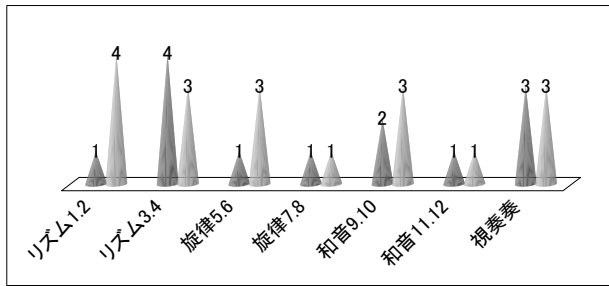


図4 最変化女子児童の状態 (■前調査 ■後調査)

K小学校の音楽科の評価は観点別に行われていた。次の4項目を絶対評価で行い、各項目を3段階で評価し、ABCで表していた。1. 音楽への関心・意欲・態度。2. 音楽的な感受や表現の工夫。3. 表現の技能。4. 鑑賞の能力。そして、音楽科の評定は3段階（3. 2. 1）で表していた。

どうも、岡山市内の公立小学校は同じスタイルで評価・評定を実施しているようである。4項目からなる評価項目で音楽科の評価を実施しているようだ。どうしても1. の音楽への関心・意欲・態度。に目が向きがちで、音楽技能を第一に要求するのではなく、「下手でもいいから音楽好きの児童」をと考えてしまうのではなかろうか。しかし、音楽科は基礎的な技能を身に付けることなくして音楽活動を楽しむことはできないのである。

## 7. 小学校音楽科授業の成果と課題

小学校の修業年数は6年間である。と同時に各教科の基礎技能を身に付ける最適の時期でもある。陰山英男<sup>(13)</sup>が実証した国語、算数の徹底した基礎技能習得により小学校以降の学力獲得が変わってくるように、音楽科の学習においても10歳（小学4年生）までにリズム・メロディー・ハーモニーを総合的に感受し、即反応できるようにしてしまえば、それ以降の音楽活動は非常にやりやすくなる。音楽科も小学校期こそ基礎技能習得に努める

時期だと思う。

ここに興味深い小学校音楽科の教育実践研究（授業研究）があるので紹介する。平成14年11月に岡山市立S小学校は「第33回中国・四国音楽教育研究大会」の小学校部会を引き受け、3年間以上かけて音楽科の授業研究に取り組んだ。筆者は平成13年度1学期と研究の終わった平成14年度3学期にS小学校の2, 4, 6学年の音楽能力調査<sup>(14)</sup>を実施し、研究前と研究後にどれだけ音楽の基礎能力が伸長するかを測ってみた。同時にO大学教育学部附属小学校児童の音楽能力と比較した。

表6 音楽能力診断テスト（結果表示1.00～5.00）

岡山市立S小学校		O大学教育学部附属小学校	
H13年度1学期	H14年度3学期	H13年度3学期	
6年男	2.61 → 3.42(伸長率131%)	3.29	
女	3.12 → 4.06(伸長率130%)	3.69	
4年男	2.44 → 3.20(伸長率131%)	3.13	
女	2.89 → 4.00(伸長率138%)	3.72	
2年男	2.47 → 2.94(伸長率119%)	2.66	
女	3.13 → 3.60(伸長率115%)	3.35	

上表から分かるようにS小学校では3年以上に亘り全教職員共通理解のもとに音楽科の授業研究を深めたのである。岡山市立小学校にもO大附属小にも1～6学年の音楽科の年間指導計画はある。ただ、研究指定校以外は個々の教員が自分流に指導計画を理解し、自分一人で授業を行っているのである。教員が共通理解し同姿勢で授業を進め、互いの授業を見合うだけで授業の質は随分と向上すると思う。音楽科に限ったことではないが児童期こそ基礎学力を培う絶好の時期と考える。

## 注

- 1) 小学校学習指導要領解説 算数編・音楽編（1999）文部省 参照。
- 2) 供田武嘉津著「音楽教育学」音楽之友社(1982)p. 92 参照。
- 3) ～11) 真篠 将, 浜野政雄, 茂木茂八編「音研式 小学校用 音楽能力診断テスト」日本文化科学社

- (1979)参照。 13) 陰山英男「陰山メソッドのすべて」VTR 小学館  
 12) 岐阜県小学校音楽部会基礎能力表作成委員会編「小学校音楽学習の手引き 基礎能力表」日本音楽著作権協会 (出) 許諾第9061066-001号(1989)参照。 (2003) 参照。  
 14) 岡山市立S小学校において、注12) の音楽能力調査実施(2001,2002)参照。

別表1 音楽能力調査 (実音テスト問題)

基礎能力		放送原稿	使用曲
リズム	1	音楽の調査をします。 1番 曲を聴いて、何拍子の曲か聴き分けましょう。 (静かに眠れ) 4拍子でしたね。 四角の中に4と書き入れましょう。このように、2拍子なら2、3拍子なら3、4拍子なら4、6拍子なら6と四角の中に書き入れましょう。では、始めます。	1. 勇気一つを友にして 2. 緑のロンド 3. 口笛吹いて 4. ベールギュント「朝」 5. こきりこ節
	1	2番 次の曲は、どんな形で指揮をしたらよいでしょうか。よく聴いて2拍子ならア、3拍子ならイ、4拍子ならウ、6拍子ならエというように、四角の中にア・イ・ウ・エを書き入れましょう。では、始めます。	1. 故郷の人々 2. グリーングリーン 3. 愉快な夢 4. イルカの旅 5. 愉快に歩けば
リズム	1	3番 元の節を弾いた後で、その節の拍子を変えて弾きます。よく聴いて何拍子に変わったかを聞き取りましょう。2拍子なら2、3拍子なら3、4拍子なら4、6拍子なら6の数字で書き入れましょう。はじめに練習してみよう。元の節「山の朝」 と 2拍子に変わりましたね。2と書き入れましょう。では、始めます。	曲名 口笛吹いて 1 2 3 4 5
	1	4番 曲を2回ずつ弾きます。2回目の演奏が1回目より速いと感じたら○、遅いと感じたら×、変わらないと感じたら△を書き入れましょう。練習してみよう。 【林の朝】 = 108 と = 92】2回目の演奏は、1回目の演奏より遅くなっていますね。×を書き入れましょう。	1. 口笛吹いて 2. 星の世界 3. エーデルワイス 4. 創作曲 5. ねねしなされ
旋律	1	5番 これから弾く曲を聴いて、フレーズごとに似た節、違う節を聞き取りましょう。4フレーズの曲「春の小川」で練習してみます。第1フレーズ【演奏】これは、元の節と似ていますから、二つ目の口の中にaと書き入れましょう。第3フレーズ【演奏】これは、元の節と似ていますから、三つ目の口の中にbと書き入れましょう。第4フレーズ【演奏】これは、元の節と似ていますから、四つ目の口の中にaと書き入れましょう。1番 2フレーズの曲です。	1. 一日の終わり 2. ぞうさん 3. ぶんぶんぶん 4. 星の世界 5. 口笛吹いて
	1	6番 表現の仕方を聞き取りましょう。これから4小節の節を弾きます。【電子オルガンで「ふるさと」を演奏】これは、アの記号のように、だんだん強くなるように表現しましたね。練習の口の中に、アと書き入れましょう。このように、表現の仕方を聞き取って、それに合う記号を選びましょう。では、始めます。	1. ドレミの歌 2. 故郷の人々 3. とんび 4. 駅馬車 5. もろ人こぞりて
律	1	7番 「おおぞらたかくうたごえひびく」という歌詞にいろいろな節をつけます。それぞれ一カ所だけ、音楽と節の感じが合わないところがあります。その小節を見つけて問題です。練習してみよう。 <歌う> 3小節目の「うたごえ」<歌う>のところが不自然でしたね。 3小節目の( )に×印を付けましょう。では、始めます。	練習 1. 2. 3. 4. 5.
	2	8番 これから弾く節は、途中から節の感じが変わります。 <演奏「暮られた遊園地」> 短調から長調に変わりましたね。このように節の感じが短調から長調に変わったら ---- チ 長調から短調に変わったら ---- タ 長調から日本の節に変わったら ---- ニの記号を書き入れましょう。では、始めます。	1. 夢をのせて 2. 雪の降るまちを 3. かっこ 4. フラランドール 5. さあ太陽を呼んでこい
和音	1	9番 ピアノで○○○○○○○Vのリズムで和音を弾きます。答えの欄で、一カ所書いてないところがあります。書いてないところの和音はどの和音でしょう。「ドミソ」<ピアノ音>なら1、「ドファソ」<ピアノ音>なら4、「シレソ」<ピアノ音>なら5、「シレファソ」<ピアノ音>なら7の数字を書き入れましょう。(全て長調)一度、練習してみよう。<ピアノ>でI、IV、V、Iを弾く>書かれていないところの和音は「シレソ」でしたね。練習の欄に、5と書き入れましょう。では、問題に移ります。問題は1回だけ弾きます。	1. I I I V 2. I IV V I 3. I IV V I 4. I IV V I 5. I V V V
	2	10番 9番と同じやり方です。短調の和音を聴いて「ラドミ」<ピアノ音>なら1、「ラレファ」<ピアノ音>なら4、「ラレファ」<ピアノ音>なら4、「#ソラミ」<ピアノ音>なら5、「#ソシレミ」<ピアノ音>なら7の数字を書き入れましょう。では、始めます。	1. I I V I 2. I I V I 3. I I IV I 4. I IV V I 5. I IV I V
声	1	11番 4小節の節を弾きます。節と伴奏をよく聴いて和音を聞き取り、空いているところに1、4、5、7の数字を書き入れましょう。一度練習してみよう。第3小節目は「シレソ」の和音、第4小節目は「ドミソ」の和音でしたね。練習のところに「5、1」と書き入れましょう。問題は、長調と短調の両方でできます。では、始めます。	1. 静かにねむれ 2. ふるさと 3. 星の世界 4. おちば 5. 創作曲
	2	12番 主旋律に副次的な旋律を加えて、二重唱や三重唱をします。響きの不自然な小節がひとつだけあります。響きの不自然な小節にひとつだけ○をつけましょう。一度練習してみよう。響きの不自然な小節は、第2小節目でしたね。練習のところに「ど」のところに○を付けましょう。では、始めます。問題は、1回だけ演奏します。	1. ふるさと 2. 星の世界 3. エーデルワイス 4. かりがわたる 5. 勇気一つを友にして
視唱・視奏	1	13番 短い節をピアノで2回ずつ弾きます。楽譜と違った演奏をしている小節の番号に×を付けましょう。では、練習をしてみます。 <3秒おいて2回繰り返して弾く> 今の演奏は、1小節目の「ドレミラ」<音程を付けて歌う>を「ドレミファ」<音程を付けて歌う>と演奏していましたね。 1に×を打ちましょう。 では、始めます。 1番 -----	練習 口笛吹いて 1. 創作曲 (～長調) 2. 創作曲 (～長調) 3. 創作曲 (～長調) 4. 創作曲 (～長調) 5. 創作曲 (～短調)
	2	14番 短い節をピアノで弾きます。その節を五線の上に音符で書き入れましょう。途中まで書いてありますから、続きを書き入れましょう。2回ずつ弾きます。では、始めます。 1番 -----	1. 創作曲 (～長調) (7音中3音記入) 2. 創作曲 (～長調) (7音中3音記入) 3. 創作曲 (～長調) (9音中4音記入) 4. 創作曲 (～長調) (7音中5音記入) 5. 創作曲 (～長調) (7音中5音記入)